

「野良猫に1代限りの生をまっとうさせる」

フロントランナー

Front Runner

(1面から続く)

山口 武雄さん 獣医師

「野良猫を捕獲（TNR）し、不妊・去勢手術（Neuter）をして元の場所に戻す（Return）」このTNR活動を40年近く続けています。すべての野良猫を飼ひ猫にできれば、それはもちろんすばらしい。でも、現実には不可能です。私がこの活動に取り組み始めた1980年代には、全国の自治体に取寄される猫は毎年20万、30万匹もいて、そのほとんどが殺処分されていました。今でも年4万匹以上が収容されている。それだけの数の飼い主を継続的に見つけてあげることは、残念ながら難しい。

スピード感を

「野良猫を元の場所に戻すことに反対する人もい

ます。不妊・去勢手術をすれば、オシッコによるにおいづけなどもなくなる。発情期がなくなるから、夜間に大声で鳴くようなこともない。地域の人たちの理解を得やすくなり、猫が人間社会のなかでより共生しやすくなります。」

TNRは数回やってみてやめたり、間隔を空けすぎたりするのはダメ。肝心の猫は、その地域にいる猫をスピード感をもって、徹底して手術すること。かつ、それを粘り強く続けること。いつか地域で暮らす猫を目にしなくなる日が来ます。猫が存在すること

嫌な思いをする人もいなくなる。野良猫の繁殖がなくなり、増えなくなったのです。」

——地元自治体の協力も重要ですね。

自治体の担当者による気がある、スピードも規模も違ってきます。2017年度からは、三重県の公務員獣医師に手術の技術指導を始めました。臨床経験がほとんどありませんでしたが、マンツーマンで指導し、TNRの現場で手術を担えるようになってきました。当初は5人の獣医師がいて1日約30匹しか手術ができませんでした。今では1日約100匹レベルまで習熟してきました。もう少しで、公務員獣医師だけでTNR活動を推進する体制ができあがります。

被災地でも

「すぐに屋外の環境に戻すから、安全に手術する技術が求められる。難しい手術ではありませんが、僕は、おなかを切る場所は、最後（お尻寄り）の乳頭の真ん中のちよっと上（頭寄り）と決めていきます。そこは血管が少ないから、出血は少ない方がいい

でしょう。——国内外の被災地で救済活動もしてきました。

震災・普賢岳の噴火災害、阪神淡路大震災、東日本大震災と多くの被災地で活動してきました。被災し、飼い主を失った動物たちに新たな家族を見つけてあげるには、やはり不妊・去勢手術をしないといけない。ケガをしていけば、治療しないといけない。体調を崩して病気になる動物もいる。獣医師なら率先していかないとダメでしょう。普賢、動物のおかげで暮らしていているのだから。スマトラ沖地震の際、1カ月くらいインドネシアに行ったのも同じこと。災害が起きた時、人の言葉を話せない動物たちが苦しむことになるのはどの国でも同じです。

——全国を飛び回って手術にかかわる費用は、ずっと実費程度しか受け取っていません。しかも出張の連続で、自宅に帰れるのは月に1週間程度とか。なぜそこまでできるのでしょうか。

野良猫を捕獲するため一晩中、駆け回る。乳飲み子が保護されたら3、4時間おきに授乳する。毎日エサをあげ、毎日それを片付ける。フンの掃除もする。自宅にたくさん猫を抱えている人もいます。そして時々、猫が嫌いな人から苦情を言われる。本当に猫が下がりません。そんなボランティアさんたちを手助けできる。獣医師になったかがあるというものです。この活動を引退するつもりはありませんよ。

プロフィール

★1947年、神奈川県生まれ。実家は養豚をしていた。日本大学農獣医学部畜産学科に入学。友人の犬の面倒をよく見ていたところ「獣医師に向いている」とすすめられ、獣医学科に再入学。

★74年、神奈川県大和市で山口獣医科病院を開業。「ゴン子」と名付けた野良猫＝写真＝との出会いを機に、格安で野良猫の不妊・去勢手術を手がけるように。



★93年、移動手術車で、出張手術の全国キャラバンを開始。

★95年、阪神淡路大震災の被災地へ。公園にテントを張り約4カ月にわたり、動物たちの診療や不妊・去勢手術にあたる。

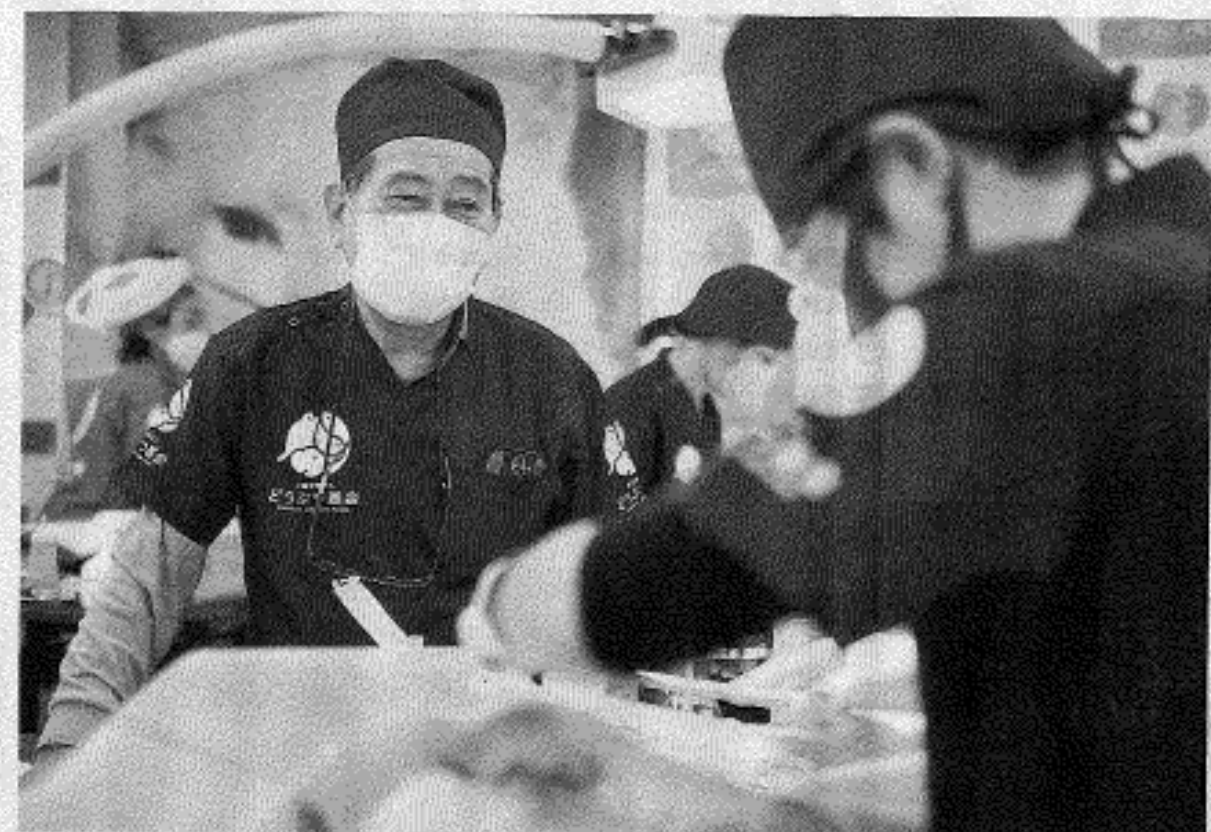
★99年、財団法人「富岡操動物愛護基金」（現・公益財団法人「どうぶつ基金」）理事に就任。後に会長となり、現在は顧問。

★2004年12月のスマトラ沖地震後、すぐに現地に向かい、犬猫の診療や手術にあたる。

★10年、動物愛護管理功労者として環境大臣表彰を受ける。

★17年、山口獣医科病院の経営から引退。

◆次回は、「ハート・オーガナイゼーション」の代表取締役、菅原俊子さん。地方の医師、救急隊、都市の名医をネットでつなげて命を守ろうと奮闘しています。



若手獣医師たちの手術を見学する山口武雄さん。「各地の獣医師会も立ち上がってくれたらなあ。そうしたら、あっという間に殺処分を減らせるのに」——福岡県みやま市